

第2学年〇組 算数科学習指導案

令和7年5月15日(木) 第6校時
 場所 2年〇組 教室
 児童数 男子 名 女子 名 計 名
 授業者 教諭

1 単元名 ひき算のひっ算

2 単元について

(1) 児童について

① 児童の実態

本学級の児童は、素直で意欲のある児童が多い。「誰一人取り残さないクラス」を合言葉に、「みんなでよりよくなっていこう」「学んだことを実生活に生かしていこう」とする姿勢が多くの場面で見られる。学習・生活どちらの場面においても、困っている友達に進んで声を掛け、助けようとする姿も複数見られる。

一方で、「話を聞く」とことと「相手が分かるように話す」とことには課題が大きく、学級目標にも定めた。自分がやりたいことを優先し、話者に正対していない姿が度々見られる。これは、基礎学力を身に付ける上で大事な姿勢であるため、繰り返し指導していきたい。


また、個別指導が必要な児童が複数在籍している。そこで、場面に応じて一斉指導と個別指導、また多様な学習スタイル、メタ認知を育てる指導を行い、基礎学力を身に付けさせていきたい。

② 集積したデータから分かる児童の実態

(ア) レディネステストから

③ ひき算のひっ算
2年 組 番
名前

1 りすと うさぎが います。
 どちらが ^{ひき}ひき
 多いでしょうか。



しき $\frac{28}{31}$
 答え $\frac{27}{31}$ が ひき
 多い。

2 □に ^{ひき}数を 書きましょう。

① 29は 20と $\frac{31}{31}$ を
あわせた 数です。

② 18は $\frac{30}{31}$ と 8を
あわせた 数です。

③ 34は、10が $\frac{30}{31}$ こと
1が 4こです。

④ 45より 3 小さい 数は
 $\frac{27}{31}$ です。

3 計算を しましょう。

① 7-3 $\frac{29}{31}$
 ② 14-8 $\frac{29}{31}$
 ③ 90-50 $\frac{31}{31}$
 ④ 78-3 $\frac{31}{31}$

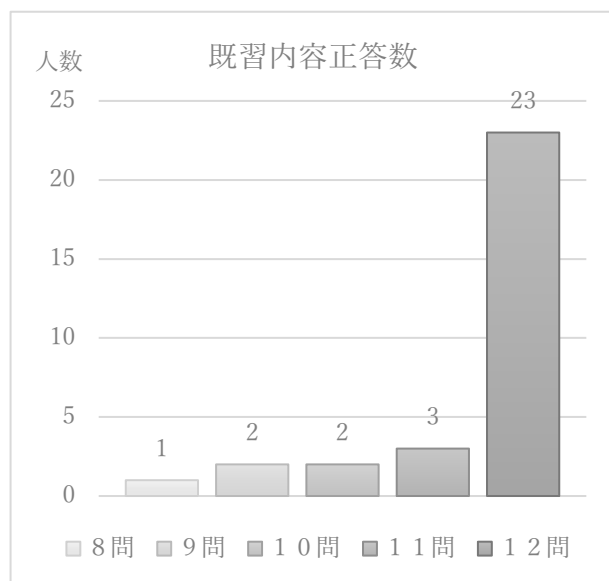
4 12人で いすとリゲームを
 しています。いすは 5つ
 あります。
 すわれない 人は ^{おん}何人ですか。

しき $\frac{31}{31}$
 答え $\frac{31}{31}$

5 つきの もんだいは、
 まだ 学ばうして いない 内ようです。

① 計算を しましょう。

① 54-21 $\frac{20}{31}$
 ② 36-16 $\frac{23}{31}$
 ③ 37-19 $\frac{21}{31}$
 ④ 23-9 $\frac{15}{31}$



12問中の正答数が左表のとおりである。正答人数が一番少なかった問題①の答えや②④は、「りす」が5ひき多

い」や「45より3小さい数は□です」と答える問題である。複雑な文章ではないが、「～より3小さい数は□です」のような比較用語についての言葉理解が乏しい様子がうかがえる。特に、児童Aは、文章の穴埋め問題を1つ以外全て間違っているが計算問題は1問以外全て正答し、かつ未習問題も3/4正答していることから、児童Aには授業のはじめに言葉のサポートをすることで、基礎学力を高めていくことができると考える。

また、児童Aだけでなく、児童B、Cについても同様な結果が見られている。児童Bは授業中に積極的に発言をし、自分の考えを適切かつ豊かに表現できる児童である。しかし、スクールダッシュボードではこの1カ月間で2度、算数の学習について「意欲が全くない」と回答していたり、行動がマイペースゆえ毎時間の「授業アンケート」実施率が低かったりしており、授業で見せる様子と心情に差が見られたり、気が散って授業に集中していないことにより理解ができていなかったりするのかもしれない。机間指導の際適宜声掛けを行ったり形成評価を続け、理解が不十分なところは支援を行ったりしていく。

児童Cについては、ルーブリックでSを目指すほど意欲が高いが、算数だけでなく国語の基礎学力が弱かったり正しく筆算を書くことができなかつたりする様子が見られる。意欲を励ましつつ、一つ一つの理解をしっかりとしたものになるよう、個別に指導していきたい。

未習内容については、未習にもかかわらず①②は約2/3の児童が正答している。しかし、本時の内容となる③は顕著に正答率が低い。このことから、本単元の1～3時間目は一斉指導をメインにするのではなく自由進度的に学習を進め、指導の個別化に重点を置く。本時の繰り下がりのある2位数ー2位数の学びは、どのようにみると既習の計算が使えるのかを考える場面で、学習スタイルを選択できるようにするが、レディネスや本時までのパワーアップ問題の正答率等が低い児童を前に集め、既習の計算の仕方を使って考える方法を導いていくようにする。

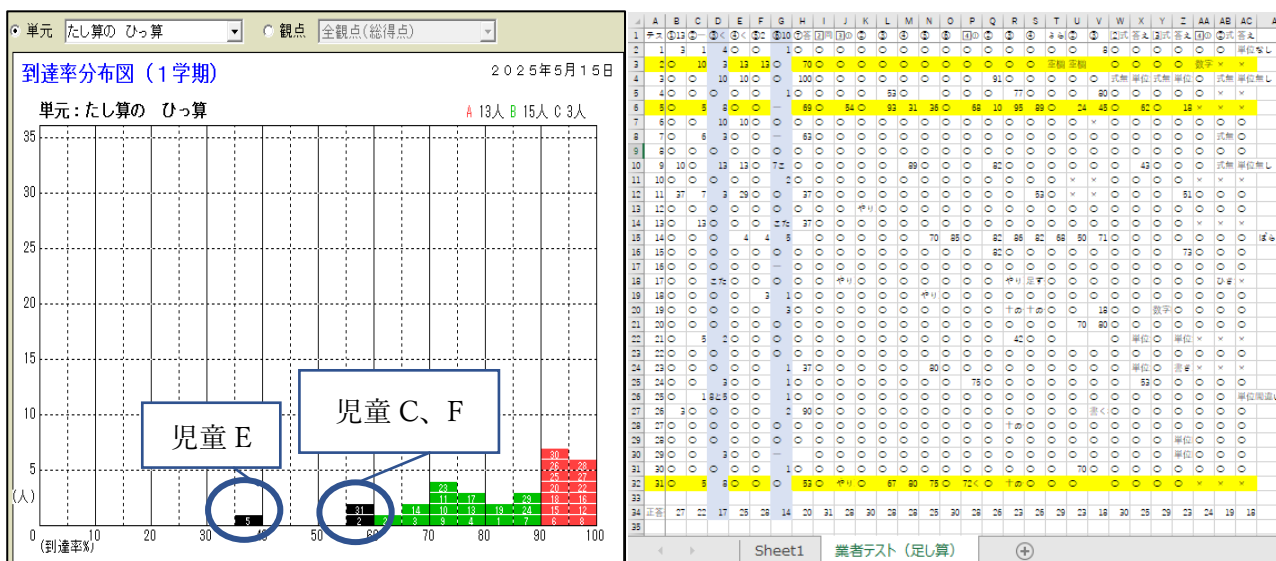
(イ) スクールダッシュボードから

| 年度 | 今年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 月度 | 04月 | | | | | | | 05月 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 番号 | 4/21 | 4/22 | 4/23 | 4/24 | 4/25 | 4/26 | 4/27 | 4/28 | 4/29 | 4/30 | 5/1 | 5/2 | 5/3 | 5/4 | 5/5 | 5/6 | 5/7 | 5/8 | 5/9 | 5/10 | 5/11 | 5/12 | 5/13 | 5/14 |
| 28 | ○ | △ | △ | - | - | - | - | △ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | △ | - | - | - | △ | △ | △ |
| 01 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | ○ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ |
| 20 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | ○ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ |
| 26 | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | × | - | ○ |
| 02 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | ○ | ○ | - |
| 03 | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | ○ | - |
| 04 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 05 | △ | ○ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 06 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | - | ○ |
| 07 | ○ | ○ | × | - | - | - | - | ○ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | - | ○ |
| 08 | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - |

「学級詳細」の「算数」の「意欲」を見ると上記のような結果となり、28の児童が度々ネガティブな回答をしていることが分かる。本児童は、前学年においても学力はやや高めの子である。「あまり楽しみではない」との回答理由を尋ねると、「あまり算数が好きではないから」との答えであったが、具体的な内容はなかった。消極的な児童であるため、教師から積極的に声掛けや見取りをし、

意欲の向上を図っていく。

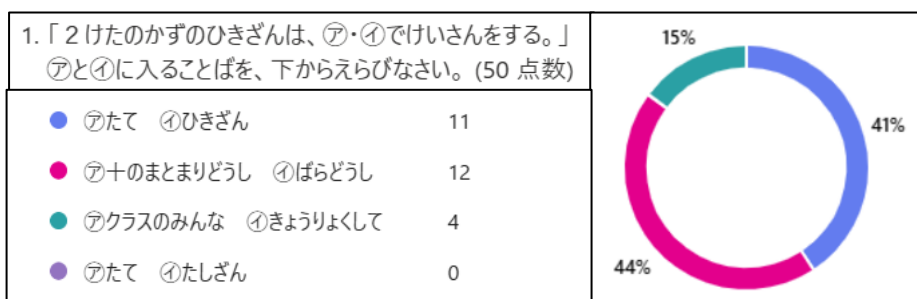
(ウ) 前単元「たし算のひっ算」の業者テストから



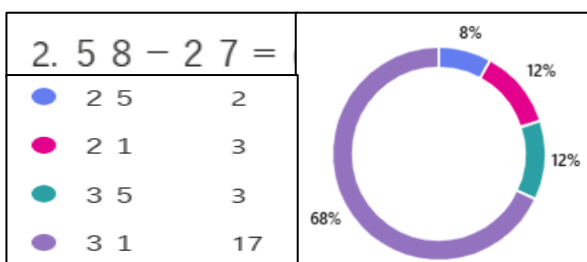
クラス半分以下の正答率だった2つの問題は、くり上がりのある足し算の筆算方法を問う問題である。「1くり上げる」「7 (10のくらの数字) は10のまとまりが7こ」を違う数字で答えている。授業中にノートに記載させたり声に出して言ったりする活動を行ったが、問題として出された時の答え方が分からなかったり、学習内容が定着していなかったりしていたものと考えられる。身に付けさせたい学習内容については、アウトプットを書いたり言ったりして何度も行ったり、キーワードとして自発的にノートに書く指導を繰り返したりして、文章の問いにも答えられる力を高められるようにしたい。

また、児童Eについては、計算ドリルの取組では正答率が高かったが、業者テストでは知識・技能が半分以下の得点であった。授業中に把握しきれていなかった。1年の頃から欠席がやや多めの児童のため、授業中は教師と一緒に取り組んだり、キーワードをノートに記載するよう指導したりして、学力の向上を図りたい。

(エ) パワーアップ問題から



敢えて、引っ掛かるような問題をつくったのだが、やはり文章力に課題が見受けられる。繰り返し、同様の問題を解く経験をさせることで、文章をよく読み相応しい問いを解答で



きるようにしていきたい。

また、繰り下がりのないひき算でも正答率は2/3であった。誤答をしたのは児童A、Eと児童G、Hであった。児童G、Hは1問に掛ける時間が長かったり、授業中に不安そうな表情を見せたりしている。教師による

積極的な支援が必要である。

これらのことから、正答率や回答内容で気になる児童について、以下のような手だてを講じる。

| | 実 態 | 手だて |
|------|---|---|
| 児童 A | <ul style="list-style-type: none"> ・スクールダッシュボードの「主体性」「達成」「意欲」全てにおいて、4月から伸びている。 ・言語理解の支援が必要。 ・レディネステスト 8/12 | <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の始めの段階で、言葉の理解を促す支援。 ・問題解決を一緒に行う。 |
| 児童 B | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中は積極的に発言。 ・「意欲」でネガティブ回答 2 回（4月から） ・レディネステスト 9/12 | <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の際に積極的に声掛けを行う。 ・友達と学び合うことを勧める。 |
| 児童 C | <ul style="list-style-type: none"> ・ループリックめあて S ・レディネステスト 9/12 ・「たし算のひっ算」評価 C | <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の始めの段階で、言葉の理解を促す支援。 ・問題解決を一緒に行い、正しく理解できるようにする。 |
| 児童 D | <ul style="list-style-type: none"> ・学力やや高い ・「意欲」で「あまり楽しみでない」回答多数 | <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導の際に積極的に声掛けを行う。 ・友達と学び合うことを勧める。 ・不安に思う理由を明らかにし、肯定的な声掛けを行い、自信につながるようにする。 |
| 児童 E | <ul style="list-style-type: none"> ・やや欠席多い。 ・「たし算のひっ算」正答率 40%以下 ・授業中には「一人で」解決している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決を一緒に行い、正しく理解し、計算方法を身に付けられるようにする。 ・家庭と連携して支援する。 |
| 児童 F | <ul style="list-style-type: none"> ・分からないときは、速やかに教師に尋ねる。 ・「たし算のひっ算」評価 C ・言葉を自分で考えて表記することが苦手。 | <ul style="list-style-type: none"> ・解決するためのキーワードだけを繰り返し指導し、覚えられるようにする。 |
| 児童 G | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中には「一人で」解決している。 ・パワーアップ問題で不正解。 ・1 問に掛ける時間が長く、不安な表情。 ・「主体性」「達成」4月から大きく下がる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決を一緒に行い、正しく理解し、計算方法を身に付けられるようにする。 ・家庭と連携して支援する。 |
| 児童 H | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中には「一人で」解決している。 ・パワーアップ問題で不正解。 ・1 問に掛ける時間が長い。 ・「達成」「意欲」4月から大きく下がる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決を一緒に行い、正しく理解し、計算方法を身に付けられるようにする。 ・家庭と連携して支援する。 |

(2) 教材観

本単元で扱う2位数 $-$ 1、2位数の計算は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第2学年 A 数と計算

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

(ウ) 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。

(エ) 加法と減法との相互関係について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

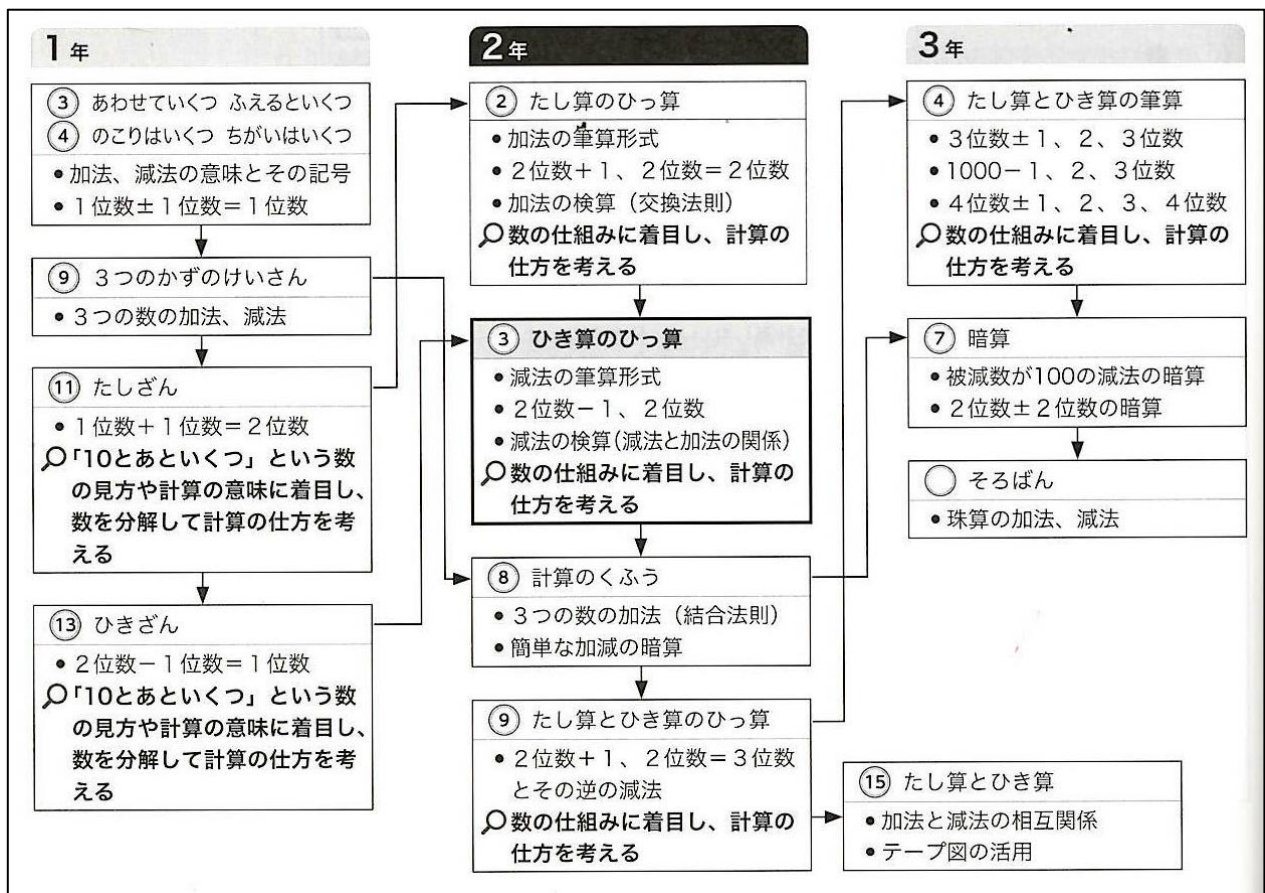
第1学年では、1位数 $-$ 1位数や十何 $-$ 1位数 $=$ 1位数の繰り下がりのある減法の計算の仕方を学習している。また、簡単な場合の2位数の減法について学習することで、数の理解をより確実にしてきている。さらに第2学年の前単元「たし算のひっ算」では、2位数 $+$ 1、2位数 $=$ 2位数の計算の仕方を考え、数の仕組みに着目し、10のまとまりの個数と端数どうしの計算をすればよいことを学習した。そして、その考えを基にして、筆算の仕方も学習している。

本単元においても前単元「たし算のひっ算」と同様、十進位取り記数法による数の表し方や数を十と単位としてみるといった数の仕組み、数量関係に着目して、2位数の減法計算の仕方について考える力や考えようとする態度、活用しようとする態度を育てていく。

そして、10のまとまりの個数と端数どうしを計算、つまり各位の数に着目して計算することで、既習の1位数 $-$ 1位数の計算と同様に計算できることを見いだす。

繰り下がりのある場合にも、数の見方に着目し、2位数をどのようにみると既習の計算が使えるのかを考えていく。そして、見いだした計算の仕方を振り返ることで、一の位どうしの計算ができないときには、十の位から1繰り下げて計算するという計算の仕組みに気付くことができるようにする。

また、本単元においては、数量の関係に着目し、減法の答えに減数をたすと被減数になるということを見いだしていく。そして、減法の答えの確かめをする際に活用しようとする態度を育てていく。



(3) 指導観

4月よりタブレットを使った授業を行ってきた。新しい機能を多く示しているが、その時間内に進んで身に付けようと熱心に取り組む姿が多く見られ、感心するほどである。5月に入ってから、「自分で・友達と・先生と」という様々な学習スタイルや、オクリンクプラス・ホワイトボード・教科書・オクリンクプラスに配信されたヒントカード・掲示物等、多様な道具を活用して学習する方法を学んできた。また、振り返りにも時間をかけ、「楽しかった」で終わりにするのではなく、「自分の学び方や内容はどうだったか」「次はどのように学んでいきたいか」等の視点を与えられてきた。これらの「学び方」の経験を通し、学ぶことの意義を一つずつ知ってきている。このことを繰り返し指導し、教科の気付きを促し、学びの自己調整力を高められるようにする。

さらに、(1)で見たように、学級には様々な状況の児童が存在する。そこで、上記に挙げた児童は積極的に教師と共に半具体物を使って思考を体感し、「できた!」という経験を多く踏ませ、半具体物から数に置き換えが解決方法を一緒に考えたり計算処理のコツを伝えたりし、基礎学力を身に付けられるようにする。

3 「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の手だて

学習の見通しをもったり自分の考えをもったりし、主体的に取り組めるようにするための工夫

手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用

前時までの内容や本時の基礎基本となる内容を、パワーアップ問題として解いたり学習コーナーに掲示したりしておき、基礎学力の定着を図る。formsを活用し、即座に正答を確認し、つまづいている児童を把握し指導に生かすことができるようにする。

対話的な学びとなるための工夫

手立て② ICT・ホワイトボードの活用

オクリンクプラスやホワイトボードに提示するようにし、考えを交流して自力解決のヒントとしたり考えを深めたりできるようにし、「わかった!」「なるほど!」という思いをもてるようにする。

深い学びとなるための工夫

手立て③ 多様な考え方や誤答の提示

ループリックのAやSを目指している児童のために、考えられる解決方法の掲示物を貼っておき、考えを広げ深める手助けとなりようにする。また、敢えて誤答を提示し、誤りの根拠に言及する場面を設定し、計算の仕方を理解し習得できるようにする。

手立て④ 気付きを促す声掛け

学習を進めながら、課題に対して「つまり」とまとめを記していけるとよいという視点を、口頭で与える。

個別最適な学び・協働的な学びとなるための工夫

手だて⑤ 学習スタイルの選択と個に応じた指導

「一人で考える」「友達と考える」「先生と考える」の中で、自分に合った学習方法を選択できるようにする。解決の見通しが見つからない児童には、実態に合わせて半具体物や図を用いて教師と共に学習したり、ヒントの載ったワークシートで自力解決ができるようにしたり、一人で学んでいける児童にはホワイトボードやオクリンクプラスを用いて考えを練り上げていける環境を整えたりするなど、学習スタイルや方法を選択できるようにする。練習問題の場面では、教科書問題をベースとして応用課題や発展課題を提示したり自作問題へ挑戦するよう声掛けしたりする。

手だて⑥ メタ認知の力を高め、自己調整力を育てる指導の工夫

ループリックを使ったり、「毎日の記録 授業アンケート」の記述の視点を示したり、設問7を学習内容や学習スタイルを振り返り次時のめあてをもつ観点で行うようにしたりして、振り返りを大事にする。

4 単元の目標

2位数の減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算方法を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

5 単元における評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|------|--|---|---|
| 評価規準 | 2位数の減法計算が1位数などの基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできるとともに、その筆算の仕方について理解している。 | 数の仕組みに着目し、2位数の減法計算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。 | 2位数の減法の筆算の仕方について、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 |

6 単元の指導計画 (8 時間扱い 本時 4/8)

| 時 | 目標 | 学習活動 | ○留意点 手だて ◇評価規準 |
|---|--|--|--|
| 1 | ○2 位数の減法 計算の仕方を 考えることを 通して、減法 の筆算の仕方 を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前単元「たし算のひっ算」を想起し、「ひき算のひっ算」の学習過程を立てる。 ・問題の場面から数量の関係を捉え、立式する。 ・47—15 の計算の仕方を考える。 ・半具体物(ブロック)や今までの考え方を使って、計算の仕方について考え、説明し、検討する。 | <p>○児童の主体的な学びになるように、児童とともに「たし算のひっ算」の学習過程を想起し、プロジェクターに映し出しながら Excel にまとめる。また、それらをもとに、身に付けたい力も一緒に考える。ただし、教師のねらい(年間指導計画)を逸脱しないよう留意する。</p> <p>○1~3 時間目は、ねらいと活動内容を提示した後、学習の速さや学習スタイルは児童が選べるようにする。</p> |
| 2 | | <ul style="list-style-type: none"> ・筆算の仕方をまとめる。 ・練習問題に取り組む。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用</p> <p>前時までの内容や本時の基礎基本となる内容を、パワーアップ問題として解いたり学習コーナーに掲示したりしておき、基礎学力の定着を図る。forms を活用し、即座に正答を確認し、つまづいている児童を把握し指導に生かすことができるようにする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>手だて⑥ メタ認知の力を高め、自己調整力を育てる指導の工夫</p> <p>ループリックを使ったり、「毎日の記録授業アンケート」の記述の視点を示したり、設問 7 を学習内容や学習スタイルを振り返り次時のめあてをもつ観点で行うようにしたりして、振り返りを大事にする。</p> </div> <p>○ループリックの意味や学習スタイルの意義を伝える。目指してほしいのは S だけれど、S を目指せたことが凄いことではなく、自分が目指した学びに向けて学び方や内容を自分で選んで取り組めることが大事であることを伝える。</p> <p>◇2 位数—2 位数(繰り下がりなし)の筆算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【知識・技能】</p> |

| | | | |
|---|---|--|--|
| | | | <p>◇2 位数の減法計算の仕方を、ブロックや式などを用いて数の仕組み(十進位取り記数法)に着目して考え、説明している。【思考・判断・表現】</p> <p>◇既習の減法計算の学習を基に、2 位数の減法計算の仕方を考えようとしている。【態度】</p> |
| 3 | <p>○2位数ー1、2位数(繰り下がりがなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 36-26、36-32、36-2 の筆算の仕方を考える。 ・ 練習問題に取り組む。 | <p>○学習の速さを個に任せているが、机間指導や一斉指導を適宜入れ、キーワードとなる数学的な見方・考え方を学級全員が習得できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>手だて⑤ 学習スタイルの選択と個に応じた指導</p> <p>「一人で」「友達と」「先生と」の中で、自分に合った学習方法を選択できるようにする。</p> <p>練習問題は、教科書問題をベースとして応用課題や発展課題を提示したり自作問題へ挑戦しよう声掛けしたりする。</p> </div> <p>○自作問題は習得した内容を生かす上で有効な方法だと考える。作成した自作問題はオクリンクプラスにアップするようにし、友達同士で学び合えるようにする。</p> <p>◇筆算形式による2位数ー1、2位数(繰り下がりがなし、空位、欠位あり)の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【知識・技能】</p> |

| | | | |
|---|---|--|--|
| ④ | ○2位数ー2位数 (繰り下がりあり)の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・47-18 の計算の仕方を考える。 | <p>手立て② ICT・ホワイトボードの活用</p> <p>オクリンクプラスやホワイトボードに提示するようにし、考えを交流して自力解決のヒントとしたり考えを深めたりできるようにし、「わかった!」「なるほど!」という思いをもてるようにする。</p> |
| 5 | | <ul style="list-style-type: none"> ・47-18 の筆算の仕方を考え、まとめる。 ・練習問題に取り組む。 | <p>手立て③ 多様な考え方の提示</p> <p>ループリックのAやSを目指している児童のために、考えられる解決方法の掲示物を貼っておき、考えを広げ深める手助けとなりようにする。</p> <p>◇繰り下がりのある場合の減法の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み(十進法位取り記数法)に注目して考え説明している。 【思考・判断・表現】</p> <p>◇筆算形式による2位数ー2位数(繰り下がりあり)の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【知識・技能】</p> |
| 6 | ○2位数ー1,2位数(繰り下がりあり、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・40-18、45-38、40-8の筆算の仕方を考える。 ・練習問題に取り組む。 | <p>○「ばらは1の位」を合言葉に、位を揃えて間違わずに計算できるようにする。</p> <p>○オクリンクプラスに答えを配信しておき、自分で丸付けができるようにするとともに、間違ったら原因を見つけ次は間違わないようにキーワードを赤で記入することが大事であることを指導する。</p> <p>手立て③ 誤答の提示</p> <p>敢えて誤答を提示し、誤りの根拠に言及する場面を設定し、計算の仕方を理解し習得できるようにする。</p> <p>手だて⑥ メタ認知の力を高め、自己調整力を育てる指導の工夫</p> <p>ループリックを使ったり、「毎日の記録授業アンケート」の記述の視点を示したり、設問7を学習内容や学習スタイルを振り返り次時のめあてをもつ観点で行うようにしたりして、振り返りを大事にする。</p> |


| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | ◇筆算形式による2位数ー1、2位数（繰り下がりあり、空位、欠位あり）の減法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【知識・技能】 |
| 7 | ○減法と加法の関係を理解し、答えの確かめに用いることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとらえ、テープ図を完成させる。 テープ図を基に立式し、答えを求める。 41-15の答え26に減数の15をたした結果を被減数と比べる。 減法計算をして、減法と加法の関係をを用いて答えを確かめる。 | ○「ひかれる数」「ひく数」の用語を習得し、言葉で説明することができるように、式をもとにおさえたり、繰り返しアウトプットしたりする場面を設定する。 ◇減法と加法の関係をを用いると、減法の答えを加法で確かめられることを理解し、答えの確かめに用いることができる。【知識・技能】 |
| 8 | ○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 | <ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手だて⑤ 学習スタイルの選択と個に応じた指導</p> <p>「一人で」「友達と」「先生と」の中で、自分に合った学習方法を選択できるようにする。</p> <p>練習問題は、教科書問題をベースとして応用課題や発展課題を提示したり自作問題へ挑戦するよう声掛けしたりする。</p> </div> ○本校の児童の課題である文章問題や選択問題、言葉で説明する力を習得できるように、そのような内容の問題を用意しておく。 ◇基本的な問題を解決数ことができる。【知識・技能】 ◇数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している【思考・判断・表現】 ◇単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【態度】 |

7 本時の学習指導（4/8時）

（1）目標

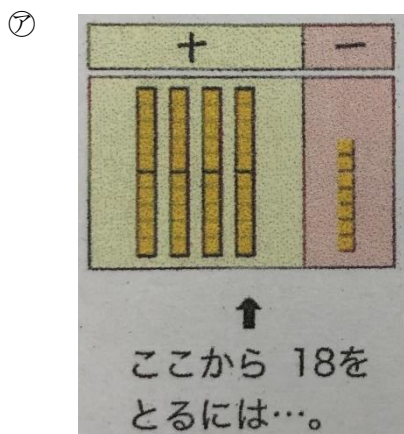
- 2位数ー2椅子（繰り下がりあり）の筆算の仕方を、数の仕組みに着目して考え、説明することができる。
【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

| 学習活動 ・ 内容 | ○指導上の留意点 ◇評価規準【観点：方法】 | 時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----|---|-----------|---------|----------------------------|----------|--------------------|--|------------|----------|---------------------------|----------|-----------------------|--|-----------------------------|------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|-------------|---------------|------------|----|--|---|
| <p>1 パワーアップ問題を forms で行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. ひきざんのひっさんは、くらいをどのようにして けいさんしますか。* (50 点)</p> <p><input type="radio"/> よこにそろえて</p> <p><input type="radio"/> ばらばらにして</p> <p><input type="radio"/> 10のたばと ばらで</p> <p><input type="radio"/> たてにそろえて ✓</p> <p>2. $68 - 3 = *$ (50 点)</p> <p><input type="radio"/> 38</p> <p><input type="radio"/> 71</p> <p><input type="radio"/> 53</p> <p><input type="radio"/> 35 ✓</p> </div> | <p>○パワーアップ問題を終わったら、保存をし、解答を確認するようにしている。</p> <p>○進行度に差が見られるため、早く終わった児童は、ルーブリックで自分のめあてを立てるようにする。</p> <p>○forms「応答を表示」から、児童の解答結果を確認し、理解が不十分な児童には授業時間内もしくは休み時間に対応する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手だて① 既習内容の確認や学習コーナーの活用 前時までの内容や本時の基礎基本となる内容をパワーアップ問題として解き、基礎学力の定着を図る。formsを活用し、即座に正答を確認し、つまづいている児童を把握し指導に生かすことができるようにする。</p> </div> | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2 学習過程から、本時の課題を確認し、ルーブリックを使って自分のゴールを立てる。</p> <p>・課題：くり下がりのある2けた-2けたのひき算のしかたをかんがえ、せつめいできるようなろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fce4d6;"> <p>A+「つまり」でだいじなことをまとめるか、気をつけたほうがよいかんがえかたをクラスにつたえることができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #bbdefb;"> <p>B+いくつかのほうほうで、せつめいができる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff9c4;"> <p>ブロックやずをつかってかんがえ、せつめいすることができる。</p> </div> | <p>○子どもたちとつくった学習過程（下記写真）で確認し、意欲をもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">A</th> <th style="width: 50%;">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 たし算のひっ算</td> <td>ひき算のひっ算</td> </tr> <tr> <td>2 ①2けた+2けたのけいさんのしかたをかんがえた。</td> <td>①2けた-2けた</td> </tr> <tr> <td>3 十のまとまりとばら</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4 ②ひっ算のしかた</td> <td>②ひっ算のしかた</td> </tr> <tr> <td>5 ③$32+4$ 2けた+1けた $4+32$</td> <td>③2けた-1けた</td> </tr> <tr> <td>6 ばらは1のくらいにかく!</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 ④$35+29$ くり上がりのあるたし算の考え方</td> <td>④くり下がりのあるひき算の考え方</td> </tr> <tr> <td>8 ⑤くり上がりのあるたし算のひっ算のしかた</td> <td>⑤くり下がりのあるひき算のひっ算のしかた</td> </tr> <tr> <td>9 ⑥足される数と足す数を入れかえても同じ</td> <td>⑥ぜんたい-いちぶぶん</td> </tr> <tr> <td>10 ⑦れんしゅうもんだい</td> <td>⑦れんしゅうもんだい</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> | A | B | 1 たし算のひっ算 | ひき算のひっ算 | 2 ①2けた+2けたのけいさんのしかたをかんがえた。 | ①2けた-2けた | 3 十のまとまりとばら | | 4 ②ひっ算のしかた | ②ひっ算のしかた | 5 ③ $32+4$ 2けた+1けた $4+32$ | ③2けた-1けた | 6 ばらは1のくらいにかく! | | 7 ④ $35+29$ くり上がりのあるたし算の考え方 | ④くり下がりのあるひき算の考え方 | 8 ⑤くり上がりのあるたし算のひっ算のしかた | ⑤くり下がりのあるひき算のひっ算のしかた | 9 ⑥足される数と足す数を入れかえても同じ | ⑥ぜんたい-いちぶぶん | 10 ⑦れんしゅうもんだい | ⑦れんしゅうもんだい | 11 | | 3 |
| A | B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 たし算のひっ算 | ひき算のひっ算 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 ①2けた+2けたのけいさんのしかたをかんがえた。 | ①2けた-2けた | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 十のまとまりとばら | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 ②ひっ算のしかた | ②ひっ算のしかた | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 ③ $32+4$ 2けた+1けた $4+32$ | ③2けた-1けた | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 ばらは1のくらいにかく! | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 ④ $35+29$ くり上がりのあるたし算の考え方 | ④くり下がりのあるひき算の考え方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 ⑤くり上がりのあるたし算のひっ算のしかた | ⑤くり下がりのあるひき算のひっ算のしかた | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 ⑥足される数と足す数を入れかえても同じ | ⑥ぜんたい-いちぶぶん | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 ⑦れんしゅうもんだい | ⑦れんしゅうもんだい | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>3 問題を確認する。</p> <p>・商品一覧のページから、繰り下がりのある式になる問題を考える。</p> <p>・全員で一緒に取り組む問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 ひろさんは、47円もっています。18円のチョコレートを買います。のこりはいくらですか。</p>  </div> | <p>○手元でも問題を確認できるように、オクリンクプラスで配信する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手だて④ 説明する力を高める工夫</p> <p>答えは分かったが説明することが難しい児童には、まずは説明用のプリントを活用したり、オクリンクにヒントが送られたりしているので、活用するように声を掛ける。</p> </div> | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- 4 解決の見通しをもつ。
- (1)「学びのシンキングサイクル」を使って、この時間の学習の流れを確認する。
- (2) 47-18 の答えの出し方の見通しを立てる。
- ・ブロック
 - ・引かれる数、引く数を分けて考える。(さくらんぼの考え)
 - ・学習を進める形態を、Excel 上で自己決定する(自分で、友達と、先生と)。

- 5 計算の仕方を考え、問題解決をする。
- ・ブロックを使って考える。
 - ・さくらんぼの考えを使って、考える。
 - ・10 のたばとばらの視点で考える。
 - ・ヒントカードを使って考える。



①引く数を変化させる(1)。
 $18+2=20$ (18を2大きくして20にする。)
 $47-20=27$
 $27+2=29$

②引く数を変化させる(2)。
 $18=17+1$ (18を17と1に分ける。)
 $47-17=30$
 $30-1=29$

○学習過程の見通しをもち、自己調整力を育てられるように、黒板で学びのシンキングサイクルの表示を使いながら、子どもたちとともに一時間の学習過程をつくる。

- 学習スタイルを表示した Excel を確認し、児童の学習状況を把握して支援に生かす。
- 解決の糸口として、オクリンクプラスにヒントカードを送っておく。

手だて⑤ 学習スタイルの選択と個に応じた指導

「一人で考える」「友達と考える」「先生と考える」の中で、自分に合った学習方法を選択できるようにする。解決の見通しが見つからない児童には、実態に合わせて半具体物や図を用いて教師と共に学習したり、ヒントの載ったワークシートで自力解決ができるようにしたり、一人で学んでいける児童にはホワイトボードやオクリンクプラスを用いて考えを練り上げていける環境を整えたりするなど、学習スタイルや方法を選択できるようにする。

- 教師と共に解決したい児童を前方に集め、半具体物のブロックを使って操作させ、それを数に置き換える作業を一緒に行って、解決できるようにする。
- 書いた方がやりやすい児童の解決のヒントとなるように、引かれる数と引く数の両方をさくらんぼの考えで分ける方法を記したワークシートを用意する。

手立て② ICT・ホワイトボードの活用

オクリンクプラスやホワイトボードに提示するようにし、考えを交流して自力解決のヒントとしたり考えを深めたりできるようにし、「わかった!」「なるほど!」という思いをもてるようにする。

㊦引く数を変化させる(3)。

$$18=10+8(18 \text{ を } 10 \text{ と } 8 \text{ に分ける。})$$

$$47-10=37$$

$$8=7+1(18 \text{ を } 7 \text{ と } 1 \text{ に分ける。})$$

$$37-7=30$$

$$30-1=29$$

㊧引かれる数を変化させる。(1)

$$47=20+27(47 \text{ を } 20 \text{ と } 27 \text{ に分ける。})$$

$$20-18=2$$

$$27+2=29$$

㊨引かれる数と引く数を変化させる。(1)

$$47=40+7$$

7-8 はできない。

$$40=30+10(40 \text{ を } 30 \text{ と } 10 \text{ に分ける。})$$

$$7+10=17(40 \text{ から } 10 \text{ 借りてくる。})$$

$$17-8=9$$

$$30-10=20$$

$$20+9=29$$

手立て③ 多様な考え方の提示

ルーブリックの A や S を目指している児童のために、考えられる解決方法の掲示物を貼っておき、考えを広げ深める手助けとなりようにする。

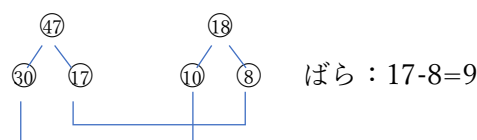
手立て④ 気づきを促す声掛け

学習を進めながら、課題に対して「つまり」とまとめを記していけるとよいという視点を、口頭で与える。

㊩引かれる数と引く数を変化させる。(2)

7-8 ができない。

計算のできる形の 10 の束とばらに分ける。



$$10 \text{ の束 : } 30-10=20$$

残ったもの同士を足す。

$$20+9=29$$

6 練り上げ、まとめる。

7 Teams にのせた word の音声入力機能でアウトプットをする。

8 学習内容と方法などを、(ルーブリックと)「毎日の記録 授業アンケート」で振り返る。

○筆算につながる、引かれる数をさくらんぼの考えで分けて解いた㊦を、「既習を使って考える方法」「10のたばとばら」の観点から取り上げ、価値づける。(㊦~㊨の計算の仕方は出るかもしれないが、未習内容である。)

○言葉にすることに自信のない児童には、黒板前でキーワードを確認したり一緒に取り組んだりして支援する。
◇繰り下がりのある場合の減法の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組み(十進法位取り記数法)に注目して考え説明している。【思考・判断・表現:word】

○振り返りが難しい児童には、出来るようになったことや分かったことを問い掛けたり、活動の様子を短い文章にしてあげたりして、一緒に活動を価値づけるようにする。

○タイピングスキルがおぼつかないので、word の音声入力機能を使って文章を作成し、コピー&ペーストで入

力するようにする。

手だて⑥ メタ認知の力を高め、自己調整力を育てる指導の工夫

ルーブリックを使ったり、「毎日の記録 授業アンケート」の記述の視点を示したり、設問7を学習内容や学習スタイルを振り返り次時のめあてをもつ観点で行うようにしたりして、振り返りを大事にする。

○振り返りの内容が自己調整の視点で児童の参考になるものを1つ選んで全体に読み聞かせ、児童の振り返りの力が高まるようにする。

9 板書計画

5/15

ゴールをきめる ルーブリック

しき：47-18

しらべる・あつめる (10分 タイマー)

見方・考え方 10のたば ばら さくらんぼ

わかる・つなげる・まとめる つまり

まとめ はっぴょう 2:08~

プロジェクター

- 学級で共有している学習過程、ルーブリックの画面
- 問題提示